

会議の概要(議事録)

会議の名称	(番号)	令和3年度第2回すみだ食育推進会議	
開催日時	令和3年11月10日(水) 午後2時45分から午後4時45分まで		
開催場所	墨田区役所 1階 リバーサイド会議室		
出席者 (敬称略)	【委員】 佐伯信郎、 友成真一、 内野美恵、 大久保勝久、 浜本 治、 河西紀道、 田口武司、 平田慎吾 河上俊郎、 栗田 陽、 岩瀬 均(保健衛生担当次長) 【事務局】 保健計画課長		
会議の公開 (傍聴)	公開(傍聴できる) 非公開(傍聴できない)	部分公開(部分傍聴できる) 傍聴者数	4人
議 題	1 報告 (1) 現計画の評価について (2) 墨田区食育計画改定検討委員会及び検討部会について (3) 災害時食支援ネットワーク検討会について 2 議事 (1) 「墨田区食育推進計画」の策定方針について (2) 「墨田区食育推進計画」の構成(案)について 3 その他 4 今後の予定		
配 付 資 料	< 配布資料 > 資料1 令和3年度 すみだ食育推進会議委員名簿 資料2 定量評価・定性評価 資料3 墨田区食育推進計画改定検討委員会等の検討経過 資料4 災害時食支援ネットワーク検討会 報告 資料5 「墨田区食育推進計画」の策定方針 資料6 「墨田区食育推進計画」の構成(案)		

1 開会

事務局

令和3年度第2回のすみだ食育推進会議を始めさせていただきます。よろしくお願いいたします。それではまず保健衛生担当次長の岩瀬よりご挨拶申し上げます。

岩瀬委員

みなさまこんにちは。お世話になっております。保健衛生担当次長の岩瀬でございます。みなさま日頃から食育の推進にご尽力賜りまして本当にありがとうございます。私どもも1か月に渡る決算特別委員会が終わり、いよいよ次の年度に向けての予算編成が佳境に入ってきております。今回の食育推進会議についてですが、前回現計画の評価をしっかりとしなければならぬという意見がございました。そういったところが抜けていた部分もございまして、今回本当であれば1月に2回目ということだったのですが、評価をしていただくために中間のこの時期にお集まりをいただきました。今年は計画の策定の年でして、現在計画の策定作業に入っております。その前段としてこの計画のための改定検討委員会やそれぞれの部会が随時開かれてまいりまして、おおむね骨子が出来上がってまいりました。本日はその骨子を皆様にみていただきたいと思っております。これから5年間先の計画のため、方向性に間違いがあったりしますといけませんので、ぜひ骨子をしっかりと見ていただいて、忌憚のない意見を何卒お願いいたします。また、本日その骨子がおおむね了承いただけましたら、いよいよ執筆作業に力を入れていくこととなります。時間のない中ではありますが、しっかりとした計画の策定を目指しまして、頑張っていきたいと思っております。本日は何卒ご意見のほどよろしくお願いいたします。簡単ではございますがご挨拶とさせていただきます。

事務局

まずお知らせがございます。長年こちらのすみだ食育推進会議の委員をお引き受けいただいております本所歯科医師会の原先生でございますが、ご病気のために8月にご逝去されております。謹んでお悔やみ申し上げます。このため1名の委員の変更がありましたのでご紹介させていただきます。本所歯科医師会専務理事の浜本治委員でございます。浜本先生には任期を引き継ぐ形で令和4年の3月31日まで依頼をさせていただいておりますのでどうぞよろしくお願いいたします。

次に、本日はzoomを併用した会議でございまして、友成副委員長、内野副委員長、栗田委員、平田委員の4名がリモートでのご参加となっております。よろしくお願いいたします。また、本日は羽原委員と高山委員、中村委員が欠席でございます。それではここからの進行は委員長にお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

委員長

はい、皆さん本当にお忙しい中お集まりいただきましてありがとうございます。本来この場で話すことではないと思いますが、実はこの進行表が私のもとに届いたのは昨日の夜の7時でした。その前に打合せはしていたのですが、昨日戻りが遅く、朝は早くから仕事をしていたので全然確認ができていません。本日何か不手際があったら申し訳ありませんが、一言皆様にご了解いただきたいと思っております。それでは本会議過半数の出席によって開催となり、議事承認については委員過半数の承認をもって承認となります。それでは進めさせていただきます。まず事務局から

報告していただき、そのあと委員のみなさまの質疑ご意見をお伺いしたいと思いません。では現計画の評価について報告をお願いします。

大久保委員

その前に少しいいですか。今回資料がメールで月曜日の17時に送られてきました。いつからメールで資料を送るようになったのかということと、入室してすぐ区の担当からお詫びがあったのですが、毎回お詫びされても、こういうことはいいくないのです。改善してほしいから言うのであって。区長もわざわざ出席なさった時にお詫びをしていたので、全く改善なされてないと思います。このようにメールでやりとりするようになったのはいつ決まったのかをはっきりしてもらわないと。僕は印刷してきましたが、印刷できない場合もあると思います。災害時食支援ネットワーク検討会の議事録の際も、メールで送られてきました。個人のアドレスではなく、本部に送られて、困った方もいたと聞いています。こういったのはいつからメールで送るようになったのか、今までは紙で送ってきていたのですから、変える時にきちんと承諾を得てやっていただきたいと思います。会議の資料についても2日前にメールで送られてきて異常事態だと思います。これはきちんと議事録に残したくて議事が始まってから申し上げるのですが、1週間前にはきちんと紙で資料を送っていただかないと困ります。他の企業であったら懲罰ものだと思います。そういうことを本当に改善していただきたい。文句ではなくお願いします。よろしくお願します。

委員長

ありがとうございます。私のところにもそうだったのですが、第1回目の食育推進会議の場で山本区長が組織として皆さんにご迷惑をかけて申し訳ないということで謝罪されたと思います。今回高橋さんは大久保先生の方に組織として謝罪しているのか、個人として謝罪しているのか、このあたりははっきりしていただいた方がいいんじゃないかなと思ったのですが、いかがでしょうか。

事務局

今回の資料配布が遅れたことに対しましては担当主査としてお詫びをさせていただきました。今回はメールで資料を送らせていただいた委員の方と、直接お会いして、資料をお渡しした委員の方がいらっしゃいます。大久保先生のところには持参できず、メールで送らせていただいたことに対する私からのお詫びという形です。

大久保委員

来る来ないのことを言っているわけではなく、2日前に送るということがどういうことなのかということを知っています。それに個人として謝っていただくことも必要ないと思っています。

委員長

そのあたりのルール付けに関しては今後きちんとやっていただけるということでよろしいでしょうか。これは組織として尋ねたほうがよろしいでしょうか。

事務局（杉崎）

大久保先生がおっしゃるように、会議にあたっては少なくとも1週間前に各委員のみなさまに資料をお送りするべきであるというふうに思っております。これまで度々あるのですが、資料の遅れがございまして、この辺りはいつみれば管理監

督であるわたくしの指導不足によるものだと思っております。また、本来であればメールでお送りするものではなく、事前に委員のみなさまにお届けするものだと思っておりますので、次回このようなことがないようにするべく重々気を付けてまいりたいと思います。

2 報告

事務局より資料 2 に基づき説明

(1) 定量評価・定性評価

事務局より資料 3 に基づき説明

(2) 墨田区食育計画改定検討委員会及び検討部会について

事務局より資料 4 に基づき説明

(3) 災害時食支援ネットワーク検討会について

3 議事

事務局より資料 5 に基づき説明

(1) 「墨田区食育推進計画」の策定方針について

ここで委員長による採決の結果、過半数以上の賛成をもって承認された。

事務局より資料 6 に基づき説明

(2) 「墨田区食育推進計画」の構成(案)について

ここで委員長による採決の結果、過半数以上の賛成をもって承認された。

-----以下、意見交換の概要-----

委員長

それでは進めさせていただいてもよろしいでしょうか。事務局よろしく願います。

事務局

それでは次第に沿いまして報告させていただきます。資料 2 をご覧ください。現計画につきましては、定量的な評価及び定性的な評価などから進捗状況をみていきたいと思っております。まず、定量的な評価についての結果です。定量的な評価の評価項目は 15 項目・17 指標がございます。大きな基本目標となっております「ひと・まち・こうりゅう・あんしん・きょうどう」につきまして評価の設問が分かれておりますが、こちらの設問につきましては健康に関するアンケート調査など、各所管がもっている調査データから目標値を決め、達成しているかということを一覧の中で示したものです。見方でございますが、左側に設問内容、その次に現計画作成時の数値、そのあと現状値というものが平成 29 年度から令和 3 年度まで記載されております。空白になっている部分は調査をしていない部分でありまして、オレンジ色の網掛けがある部分が直近の数字ということになっております。次の欄が目標値で、最後に達成状況が示してあります。が目標達成、は計画作成時よりも改善されたもの、は逆に悪化したものとなっております。また、- については新規での調査項目のため、比較ができないものです。結果でございますが、「協働」にあた

る5番目のところについて悪化が多くなっております。達成と改善の項目が併せて50%をこえているものの、悪化したものも35%ほどある状況であり、その多くが「協働」に集まっている結果となりました。それを踏まえますと、現行の計画策定時よりも食育活動の広がりというものが進んでいなかったということがうかがえるという結果となっております。また「すみだモダンブランド認証事業」については、令和2年度で事業が休止しており、次の計画策定時には使用できなくなっております。さらにこれから令和3年度の結果が出てくるものもございますが、現状としてはこのような結果となっております。

続きまして、定性評価のまとめです。こちらにつきましては先ほどの定量調査が数値的な結果だったのに対して、人の考えなどからどういった結果が出るのかというところを調査するようなものとなっております。具体的に申し上げますとすみだ食育フェスの際、来場した方々に「食について生涯を通じて学ぶことは、なぜ大切だと思いますか」といった自由記載のアンケート調査を行いまして、その回答欄に出てきた文言を解析した結果となっております。最後のページご覧ください。総括として「協働からひとりひとりの活動へ意識が変化してきている」ということが見受けられます。これはコロナ禍という社会的な背景によるものとも考えられますが、ひとりひとりの意識やビジョンをすり合わせるという役割が食育推進計画に求められているとも考えることができるのではないかと思います。それ以外にも、学びから実践フェーズに意識が変化してきているというようなところも見受けられますし、食育は一人ひとりの安心を育むとともに、まちの誇り、文化の醸成に寄与しているというようなプラスの意見も見受けられました。今回のこの定性評価ですが、前計画から行っておりますが、こちらについてはなかなか他の自治体などで用いているところがない中、前任の果敢なチャレンジだったと思いますので、今後この定性評価について、どのような設問にしていくかについては再度検討する価値はあると思います。今回はこのようなまとめかたをさせていただいております。さらに実際の計画の中の評価ではこの5年間の中の特徴的な活動についても触れていきながら、すみだの食育が5年間でどのように進んできたかを考察していくような形になるかと思いますが、それは後ほどのヒアリング部会などの報告で出てくるかと思っておりますのでここでは割愛させていただきます。以上です。

委員長

ありがとうございます。それでは現計画の評価につきまして質疑やご意見をお願いしたいと思います。

大久保委員

少し気になったのが基本目標の人の「よく噛んで味わって食べるなどの食育方に関心のある区民の割合」についてですが、73.2%から68.6%になっております。先日、10月25日に保健事業地域連携検討会が行われましたが、口腔機能低下について医師会と薬剤師会と話し合いをした際、よく噛んで食べるということは健康にも密接なかわりを持つという話題が出ました。これが下がったことの原因と、これを回復・維持するための方策が何かあれば教えていただきたいです。

事務局

こちらにつきましては私の方ではまだ深い考察をしきれませんが、同時に健

康づくり総合計画を策定する際の調査項目と同じものを持ってきておりますので、そちらの結果を後日調べまして、回答させていただければと思います。

大久保委員

回答はいついただけるのでしょうか。

事務局

1週間以内でよろしいでしょうか。

大久保委員

期限を守っていただけるなら大丈夫です。

委員長

ありがとうございます。他にいかがでしょうか。それでは栗田委員お願いいたします。

栗田委員

まず本日の会議を開催いただき、ありがとうございます。前回の会議で、現計画に対する評価をしてほしいとお願いしました。本日の資料で定量的評価、及び定性的評価として、示していただきました。ここで大切なのはこの評価結果をどのように次期計画に反映させるかだと思っております。この中で特に気になったのが、定量的評価の「食育に関心がある区民の割合」です。現計画策定時で72.4%という高い数字となっておりますが、令和元年度時点で73.8%、改善というよりは横ばいだという認識をしております。一般の行政計画と違い、この食育推進計画は区民の参加が重要なものとなっております。そうした観点から見た場合、この数字をさらに高めていく必要があると思っております。以上です。

委員長

ありがとうございます。事務局いかがでしょうか

事務局

ありがとうございます。食育に関心のある方の割合が横ばい、変わらずあったというのはありがたいことだと思っております。今ご指摘ありませんでしたが、一方で食育のボランティア活動に参加したいと思う区民の割合が前回と比べて10%ほど低下しております。事務局としてこちらの考察をいたしまして、食育に興味を持っている方々に対し、それを担い手へと変えていく努力が足りなかったのではないかと感じております。ただ、全庁的なほかのボランティアについての数字も同じ傾向がみられますので、今後食育に興味がある方を活動していく場につなげるということが大事なことだと考えております。

委員長

ありがとうございます。他によろしいでしょうか。田口委員お願いします。

田口委員

これは質問ではなく、感想です。定性的評価の設問と回答を見ていたのですが、個人的には食べることというのは生きることだと思っております。ただ回答のグラフを見ますと、「生きる」のカテゴリが大きくなっているのは設問の1のみで、あとは回答数が少ないようでした。なぜだろうなと思っております。この部分というのは難しく考えず、生きることなのではないかなと思うのですが、みなさまはどう思われますか。質問しても仕方がないかなとは思いますが、意見として言わせていただき

ました。

事務局

定性的な評価というのは自由な回答の中からその方の思いというのをくみ取る調査となっております。可能であるならば定量的評価では拾いきれない部分の結果というものを次期計画では調査できるよう模索したいと思っております。

委員長

ありがとうございました。河西委員お願いいたします。

河西委員

単純な質問で申し訳ないのですが、アンケート調査というのはイベントの来場者に対してのみ行ったのですか。

事務局

定量的な調査についてはイベント来場者ではなく、この表の下に書いてありますように健康づくり総合計画等、様々な担当や部署が計画作りにおいて調査をかけたものとなっております。ただ人の と、交流の の令和3年度の数字については食育フェス来場者にアンケート調査をかけました。

河西委員

はいありがとうございました。

委員長

よろしかったでしょうか。私から田口さんに対して good ネットとしての意見なのですが、生きるという部分のおはなしについて、協働がなされていなく、業務をこなすことがメインとなってしまった結果生るとか命というところに答えがいかなかったのかなと思いました。これはあくまで私の意見ですが。そのほかにかございますか。よろしいでしょうか。そうしましたら次に進みます。続けて食育計画改定検討委員会及び検討部会についてよろしくお願いいたします。

事務局（杉崎）

資料3の1番は前回6月の会議でご覧いただきました計画改定の検討体制です。これまでの間、2番に記載のとおり、「墨田区食育推進計画改定検討委員会」「地域ヒアリング部会」そして「SDGsと食育を考える検討会」をそれぞれ開催しました。最初に、部会の検討から報告します。

まず「地域ヒアリング部会」です。

第1回を6月19日、第2回を8月30日に開催しました。新型コロナの関係で通常のワークショップをやめて、すみだ食育 good ネットの皆さんのご協力をいただいて猛暑で大変な中、地域に出てヒアリングを行っていただきました。ありがとうございました。ヒアリングした結果は90ページくらいのメモにまとめています。第2回の部会では、この聞き取りメモを元にしながら、3つのグループでワークショップを行いました。それぞれの取り組みにどんな夢を持っているか、困り事は何か、そして、取り組みを通して何が育まれたか、良かった事は何かということでヒアリングをしたので、それぞれワークショップで、取りまとめを行ったところです。

次に、「SDGsと食育を考える検討会」です。

SDGsと食育を考える検討会は、そもそも国の第4次食育推進基本計画でSDGsを取り扱っていきましようということで、それでは食育推進計画の中にSDGsをどう取

り込んでいくかというところでの検討会になりました。たまたま墨田区が国からSDGs 未来都市と自治体 SDGs モデル事業に選定されたということもありますので、SDGs が区としても身近になっていくということで、これと食育の推進計画をどうするかという事で検討会が開催されました。第1回を7月8日、第2回を8月19日に開催しました。学生さんなど新たなメンバーを加え、若者が多い中で検討してきました。全くすみだの食育を経験していない学生さんたちに、墨田の食育について紹介させていただいた時に、学生さんたちが官民協働でやるのが大切だということに着目してもらえました。もう一度、協働というところに視点をしっかり置いて、この計画を進めていく必要があると感じました。SDGs は全部で17項目ありますけれども、全部を対象にすることよりも、まずは17番目、ここをしっかりとベースにし、協働・SDGs の17番、ここを計画の中では、しっかり位置付けていこうという事になりました。

また、「墨田区食育推進計画改定検討委員会」は、ひと月に1回程度のペースで、この間、4回開催させていただきました。この検討委員会は、佐伯委員長、友成副委員長、内野副委員長及び食育推進協働コーディネーターの秋田さんをメンバーとしています。こちらでは、ただ今申し上げました部会の方向性の確認、改定に向けたスケジュール、あるいは、計画改定の骨子などについてご検討をいただいているところです。

以上がこれまでの間の計画改定に向けた検討状況となります。

委員長

ありがとうございます。地域ヒアリング部会の田口部会長、「SDGs と食育」を考える検討会の平田部会長から説明に対する補足や、部会に参加した感想など聞きたいと思います。まず田口委員からよろしいでしょうか。

田口委員

地域ヒアリング部会長をやらせていただきましたが、自分自身は大したことはしませんでした。ただ周りの方々が動いてくださったので本当に助かりました。本当にすごいです。驚きました。いろいろな地域や団体にヒアリングをさせていただいて、かなりの量をまとめていただきまして、こんなことができたのかと驚きました。食で人が育まれるとはこういうことなのだと感じました。私は意見を少し出すだけでしたが、皆様のおかげでこんなにすごいものができて素晴らしいなと感じました。ありがとうございます。

委員長

ありがとうございます。それでは平田委員よろしいでしょうか。

平田委員

2回にわたりまして「SDGs と食育」を考える検討会を開催しました。委員長である佐伯さんをはじめ、有識者である大久保さんや農林水産省から米倉先生、千葉大学から原先生、食育関連団体のみなさまや早稲田大学の学生の方々等に参加していただきまして、どう墨田区の食育にSDGsを取り入れていくかということを検討いたしました。先ほど佐伯委員長からも話があったのですが、非常にSDGsというものは多岐にわたっております。どこか絞り込んでやっていく必要があるだろうなという方向性となりました。2回の検討会を通じまして、1番感じましたのは我々の食育

と SDGs の向いている方向性が非常に似ているということでした。SDGs の基本理念である「誰も取りのこさない」そしてそれぞれ 17 の目標をパートナーシップで実現していこうというその姿勢、それが墨田区のひとりひとりの夢を共同でかなえていこうという基本的な方向性に非常に近いということで意見が一致しました。検討委員会としましては 17 番のパートナーシップに重点を置いて進めていこうという方向性が出たことを報告させていただきます。

委員長

ありがとうございました。それでは次に災害時食支援ネットワーク検討会の報告をお願いします。

事務局

災害時食支援ネットワークについてです。こちらは従来からの検討になりますが、今年度は第 1 回を 7 月 1 日、第 2 回を 10 月 8 日に開催いたしました。資料 4 をご覧ください。

計画改定との関係で申しますと、現行の計画の中に 3 つのリーディングプロジェクトがございますが、そのうちの一つに災害時食支援ネットワークの構築を掲げております。そのため、今回は現行の計画の掲載内容の中で「平時」の食育推進ネットワークが、いざというときの食支援ネットワークとして機能するという災害対応力の強化を図るということについて、次期計画ではどのように書いていくかということ委員のみなさまと検討させていただきました。

資料 4 の後半には次期計画に記載するポイントを箇条書きしてございますが、この 5 年を振り返りますと災害時食支援についてしっかり行えていないところも多かったという反省を事務局としても致しましたし、委員のみなさまからもそういったご意見をいただきました。

次の新しい計画において、事務局としては現在のリーディングプロジェクトを継続していきたいと考えまして、「平時」の食育推進ネットワークが、「災害時」の食支援ネットワークとして機能する食環境づくりを目指すことを堅持すると謳わせていただきました。この文言につきましては墨田区オリジナルのものであり、他区でここまではっきり食育と防災の関連性を述べているところはございません。東日本大震災や熊本地震、それ以降も大規模な水害や災害等が起きている中、そういう点においても区としては次期計画にも載せていきたいと思っております。

また、これは民の取組ではございますが、この 5 年の中で生まれた他地域とのつながりを単に食育としての活動だけではなく、災害時を意識した取り組みをしているということもあります。例えばすみだ食育 good ネットさんなどがそうです。それから墨田区ではさらに東京都栄養士会と災害時の栄養相談などにおける協定を結んだというような背景もこの 5 年の中で生まれてきておりますので、計画書作成の際にはそこにも触れていきたいと思っております。また、このような検討が区民の方に情報として届いていないという反省もございましたので、今後啓発ができるような仕組みづくり、取り組みをしたいということを記載のポイントとして挙げさせていただきます。このような内容で次期計画に書き込むことについて、事務局から検討会のなかで提案させていただき、委員の方々からご了承をいただいたところです。

委員長

ありがとうございました。検討会座長の河上委員と検討会委員の大久保委員から補足等ありましたらよろしくをお願いします。

河上委員

このなかで事務局からお話ありましたように「平時」の食育推進ネットワークを「災害時」の食支援ネットワークにどう機能させるのかというのが非常に大きな課題であります。これについては墨田区としての取組でございますが、おそらく、こういった取り組みは全国的に見てもないのではないかと思いますので改めて皆様方の力を借りながらこれを具体化するために検討を進めていきたいと思っております。以上です。

委員長

ありがとうございます。大久保委員をお願いします。

大久保委員

このネットワーク検討会は、いままでおっしゃられてきたとおり都内ではないような取り組みだと思います。前にも申し上げたように未来会議というものに出た際、これは災害時について考える会議だったのですが、嚙下障害の方の避難の時にどうするかということまでは考えられないということを知ったので、非常にいい取り組みだと思います。少し気になっているのはマニュアルが塩漬けになったままになっているため、どのようにマニュアル作成をするのかということですので、よろしくをお願いします。

委員長

ありがとうございます。マニュアルについてはお聞きしますか。

大久保委員

お願いします。

事務局

マニュアルにつきましては現在何年もかかってしまっておりますが、再度骨子の部分から皆様にご協力いただいて、前回会議では骨子案もご説明させていただきました。この後事務局において、現計画が改定されるまでの間で素案を委員のみなさまに報告させていただき、すみだ食育推進会議でも報告させていただきたいと思っております。

委員長

ありがとうございます。よろしいでしょうか。

大久保委員

はい。言っていたことをちゃんとやっていただければ文句はありません。

委員長

よろしくをお願いします。それでは報告全体について何かご質問等あれば発言をよろしくをお願いします。

河西委員

この5年間の推進計画の策定する間に新しい保健センターができます。ですからこの保健センターを利用していろいろなことをやっていただけたらと思います。以上です。

委員長

ありがとうございます。そうでしたら次に栗田委員お願いいたします。

栗田委員

改定検討委員会の検討結果についてです。地域ヒアリング部会及び「SDGsと食育」を考える検討会が設けられ、それぞれ2回開催されたほか、また地域におけるヒアリングが実施されたとなっております。これらについては次期計画に反映していくために行われたと考えます。先ほど報告がありましたが、災害時食支援ネットワーク検討会の報告はこの会議に資料として配布されておりますが、この二つの部会については先ほど口頭でのごく簡潔に報告されたのみです。本来であればこの会議に資料として概要だけでも報告されるべきではないかと思いますがいかがでしょうか。

委員長

事務局お願いします。

事務局（杉崎）

こちらの概要についてまではなく、主な内容としてまとめてしまっておりまして、私が先ほど申し上げました内容について例えば箇条書きなどで報告すべきであったかもしれません。ただそのあたりは持ち帰らせていただきまして、これはいずれ計画改定の中に活かしていきたいと思っておりますので、そのあたりはちょっと検討していきたいと思っております。ありがとうございます。

委員長

よろしいでしょうか。

栗田委員

それぞれの部会で検討された内容やアンケートの内容について、私どもが事前に把握することができないと、計画に落としこまれた状態で初めて見させていただくこととなります。それでもよろしいのでしょうか。

委員長

事務局よろしいでしょうか。

事務局（杉崎）

それでは改めて資料を先ほど高橋が言いましたように、議事録をあまり時間を問わずに送付させていただきますので、その際に今申し上げた内容につきましては資料3に付け加えるような形でお送りさせていただければと思います。よろしいでしょうか。

委員長

今回の会議ではなく、後日付け加えるという認識でよろしいですか。それを確認していただいて、何か意見があればそれをくみ取るということでもよろしいですか。

事務局

はい。

委員長

そうでしたらそれでよろしく申し上げます。他にありませんでしょうか。

大久保委員

すみません。繰り返しになりますが議事録をメールで送るのでしたらメールで送

るということをおっしゃっていただいて、アドレスの確認をしなければいけないと思います。ただできれば紙で送られた方が皆さん楽だと思います。メールだと画面が小さかったり印刷ができなかったりする方もいるかと思うので、そこははっきり言っていただきたいです。また、前回の時も「指摘点等ありませんでしたので、前回お送りしました会議録の内容で確定させていただきます」というのが来ましたが、誰が読んだのかわからないのですが、他の委員で本部にメールが来てトラブルになったということも聞いていますので、組織としてきちっとやっていただければと思います。

事務局

会議録につきましては紙でお送りさせていただきます。

委員長

それではよろしいでしょうか。続きまして議事に入らせていただきたいと思えます。議事につきましては委員の過半数の賛成をもって承認とさせていただきます。事務局から説明していただき、委員のみなさまの質疑等をお伺いしたいと思います。では「墨田区食育推進計画」の策定方針について事務局からの説明をよろしくお願いいたします。

事務局

それでは資料 5 をご覧ください。今回の計画改定の策定方針でございます。これまでの計画の進捗や検討の結果を踏まえまして、このような形でまとめております。まず 1 番目の趣旨ですが、区の関連計画の状況や感染症、SDG s との関係性を踏まえまして食育計画を作成していくということを謳っているところでございます。計画の位置づけのところにも国の第 4 次食育推進基本計画や区で作成している墨田区基本計画中間改定との関連性を明確にして総合的に推進していきます。計画期間ですが、令和 4 年度から令和 8 年度までの 5 年間の計画です。

続きまして計画の体系ですが、これまで改定検討委員会でも議論させていただきまして、目指す食育の理念などは現計画から変更せずに次期計画に継承していこうと考えております。リーディングプロジェクトにつきましても継続していきたいと考えております。

理由といたしましては、この計画について国が先に示しました第 4 次の国の食育計画とも相違がなく、現計画がしっかりと綿密に練られた「食で人を育む」などのすみだオリジナルの計画であったこと。何よりこの 5 年間でやり残したこともあることからこちらは引き続き継続していきたいと考えているところです。

ただこの本文の中に出てくる文言等につきましては社会的な背景が変わっているところ等もあるかと思えますので、修正・加筆していきたいと考えております。以上です。

委員長

ありがとうございます。策定方針に大きな変更はないとの説明でしたが、これに対して何かご意見ありましたらよろしく願いいたします。田口委員お願いいたします。

田口委員

特に意見というわけではなく、自分の考え方なのですが、先ほど食というのは「生

きる」ことだと発言させていただきました。今説明を聞きまして、これは区の計画なのでそれは何も文句はないのですが、非常に難しいなと感じました。どうしてだろうと考えていたのですが、ふとナカムラテツさんという人の言葉が、また聞きなのですが浮かんできました。「農業というのは生きる力をつけるために必要なんだ」毛布は体を温めるが食べられない。お金も食べられない。場合によっては紙くずになってしまう。

要するに農業、食というのが生きるために必要なのだということです。そういう意味では、ここでいろいろと基本目標等が書かれているのは当然事実としてあるのですが、区の基本計画として当たり前のことなのですが最初の設問で生きるというのが回答として少なかったのはやはり違うのではないかなと思いましたので、意見を言わせていただきました。

委員長

ありがとうございます。友成先生は思想担当としていかがでしょうか。

友成副委員長

基本的にはこの方向でいいと思います。この段階で作業が大変な中、計画改定に向けて進んでいることに対して高橋さんはじめみなさまに敬意を表したいと思います。計画改定というのは手段にすぎませんので、食育活動の目的ではないです。なので計画自体は適当なレベルにしておかないとひたすら作業を行うことになってしまいます。それはあまり目的に合致しません。すみだの食育活動が推進されるかが大事なポイントだと思っておりますので、すみだの食育の理念である食で育むということを念頭においていただき、計画策定の作業の中で常に考えていなければならないと思います。そこを外してしまうとおそらく目的なき手段追及になってしまって、おそらく関係部署が疲弊してしまうことになりかねないと思うので、そこは注意していただきたいと思っております。策定方針については私は問題ないと考えています。以上です。

委員長

ありがとうございます。この策定方針につきましては改定検討委員会においても現状維持でいいという結論となっておりますが、何かご意見のある委員の方はいらっしゃいますでしょうか。よろしいでしょうか。それでは策定方針についてご承認いただける方は挙手をよろしくお願いいたします。ありがとうございます。

次に「墨田区食育推進計画」の構成（案）について事務局から説明をお願いします。

事務局

それでは資料 6 をご覧ください。こちらの構成案が骨子にあたるものです。まずこちらの表の見方ですが、左側の 2 列は現計画のものです。それと比較する形で次期計画の構成・内容・変更及び追加点が記載されております。そのため、右側 3 列を中心に説明させていただきます。

第 1 章です。計画の基本的な考え方です。先ほど部会の報告でもございました「協働」「パートナーシップ」というものを大切にして、すみだらしい食育を推進していくというところを謳っていきたいと思っております。その時代背景としてはデジタル化を食育に取り込むことで持続可能な食育を実現したいという考えです。さらに、

墨田区の食育は協働を実践してきているという原点もございますので、その視点からさらにSDGsの17番目のパートナーシップで食育を推進していくということを謳っていきこうと思っております。これは国の視点として持続可能な社会の実現というものを目指しているというところとも合致しますし、墨田区の基本計画についても新たにSDGsの未来都市や、夢実現プロジェクトの継続という話も聞いておりますので、こちらについても通ずる考え方になっているのではないかと考えております。また、国の第4次の食育推進基本計画の中に基本的な方針や3つの重点項目が書かれているのですが、その中の1つめが「生涯を通じた心身の健康を支える食育の推進」、2番目が「持続可能な食を支える食育の推進」、そしてこの2つを底支えするような形で3つめの「新たな日常やデジタル化に対応した食育の推進」というものを持ってきております。このようなところと、墨田区の考えているものがリンクしているということをこの章では見せていきたいと考えているところです。1章につきましては以上になります。

2章です。「墨田区の食育を取り巻く現状」。こちらにつきましては現在の潮流について書きたいと思っております。現在考えているところでは食生活の変化、健康課題、そして新型コロナウイルスの影響や子どもの貧困についても書く予定です。さらに新しいところではSDGsなど、それらに触れながら一つのつながりや自然災害について書き込んでいきたいと考えております。墨田区の現状の評価というものもこの章に入ってきますので、先ほど紹介しましたいくつかの評価についての考察、そして5年間の特徴的な活動の事例から導かれた現状というものをこの章で書ければいいなと思っております。

続きまして第3章です。「すみだらしい食育文化」についてです。これは現計画では「すみだらしい食育文化の推進」となっておりましたが、次期計画ではこれを2つに分けて、第3章は「すみだらしい食育文化」というタイトルとなっております。

こちらでは目指す食育や基本理念のスローガン、5つの基本目標とリーディングプロジェクトなどが入る章となっております。おおむね背景などは変わっておりますが、現計画の横引きに近いような形をとって書き込もうと思っております。ただそのなかでもリーディングプロジェクトのなかにあります国際的な視点での食文化について書いていく予定です。また、災害時食支援ネットワークの構築についてもリーディングプロジェクトの3つ目として載せていきたいと考えております。

現計画の中では推進も謳っておりますので、施策の体系図が載っているのですが、先ほど説明した通り推進については別の章に持っていく関係より、体系図は4章へ移行させたいと思っております。3章までは以上です。

委員長

ありがとうございます。ここまででご意見等あればお伺いしたいと思います。河上委員お願いします。

河上委員

1点お伺いしたいのですが、食育のデジタル化という表現につきまして少しよくわからないのが、これはどういう意味合いなのだろうかということです。食育の〇〇についてのデジタル化というのであればわかるのですが、すべてに対してという

のは少しわかりかねます。

また、3章では「新たな日常」としてデジタル化に対応した食育を入れることで、大きな目標変更の必要はないとありますが、これもおかしいなと思っております、新たな日常に対応してデジタル化することは、大きな変化ではないのでしょうか。教えていただきたいです。

委員長

ありがとうございました。事務局よろしいでしょうか。

事務局

まず、デジタル化のことです。国の方でも、様々な食育の推進を底支えする形でデジタル化をしていかななくてはならないと謳っています。そのため墨田でも同様の変更は必要ではないかと考えています。例えばwithコロナですみだがこれまで目指していた協食というものも一部出来なくなっているものもありますが、一方で若い人たちなどはデジタルを飲み会等に取り入れることで交流が盛んになっているという側面もあります。お料理教室一つをとっても、今まで子供を連れてでは参加できないと思っていた方々が自宅で楽しく講習を受けているといった事例も聞いております。そういう意味ではデジタル化をすることが目的ではなく、いろいろな事業や取組をしていくうえで敷居を下げるための手段として活用していきたいと考えております。

また、すみだ食育 good ネットでも、十勝とのつながりの中で「2way クッキング」と題したオンラインでの料理講習会を開いたと聞いています。このように遠く離れた人たちとの交流にも一役買っているということもあり、さらには国際交流にもつながっていくことも考えると、いろいろな部分にデジタル化がかかってくるというように言えるのかなと思います。

文言がおかしいという指摘に関しましては、箇条書きによってうまく表現できていない部分が多々ありますので、書き方を修正したいと思います。

河上委員

もう1点よろしいでしょうか。今のご説明ですと、基本目標が5つあるなかでデジタル化はこのすべてに係るのでしょうか。あるいは今の事例にあったように主に交流にかかってくるのでしょうか。5つすべてに係るのであればそれぞれどういったところなのか、若しくはこれに対して重点的にデジタル化を用いていくといったような、そういう書き方をしていただけると非常にわかりやすいと思います。デジタル化が悪いと言っているわけではなく、むしろやってほしいのですが、ですがこの5つの目標の中で言うとそのうちのどれが1番デジタル化を進めなくてはならないのかについて明確にしていきたいと思います。

委員長

事務局お願いします。

事務局

少し検討させていただいて、持ち帰らせていただきます。

委員長

よろしいでしょうか。それでは次に第4章の方をお願いします。

事務局

第4章につきましては次期計画では持続可能な推進体制という仮のタイトルをつけさせていただいております。現計画では第6章で計画の着実な推進に向けてという形で書いていた章がございましたがこちらを移行させ、また先ほど出ておりました協働やSDGsの17番目のパートナーシップを明確にしていくといったところを記載していきたいと考えております。

内容としましては「めざす食育を実現する環境づくり(しくみづくり)」として具体的な目標を9つほど今回あげさせていただき、それによって持続可能な推進体制を目指せるよう考えております。一つ一つをご説明させていただきます。

まず 庁内協働の強化です。このすみだ食育推進会議の他に、区では課長級の会議と担当者レベルでの会議を行っています。ただこちらについて本当の意味での協働というものはかかれていない部分がございますので、この会議を協働の場として機能させるという意味で書かせていただきました。

次に 食育イベントの充実(運営委員会方式に戻す)です。食育フェスですが、以前は運営委員会方式をとって参加のみなさまにも運営委員になっていただき、協働で作成してきたところがございます。ですがここ2年については新型コロナウイルスの影響もありますが、区主導で行うイベントとなった結果参加の団体さんも少なくなっており、参加者の減少も見られております。これを改善するためにイベントにおいては運営委員会方式に戻す予定です。従来からこのイベントはイベントそのものが目的ではなく、そこにかかわる官と民の方々が協働して作り上げていくということが目的でしたので、そちらに立ち返ろうと思っております。

の人材育成(すみだ食育推進リーダー育成)です。育成の目的を明確にしないと活動の場ももてません。すみだ食育推進リーダーというのはボランティアでもサポーターでもなく区と対等の立場で活動していただける方ということになりますので、きちんと活動の場を作りながら再度新しい人材の育成に取り組んでいきたいと思っております。

の食育活動表彰についてです。こちらは内閣府が開催している活動表彰制度というものがございます。そちらは民間や行政で食育活動をしている方々が自分の活動内容をエントリーして審査を受けたのち表彰される制度です。こちらの墨田区版ができないかなと考えております。先ほどのイベントと同じですが、表彰会については競わせることが目的ではなく、参加し、その活動を一般の方にも見ていただくことで「関心はあるけど食育活動に関わっていない」という層の底上げするような事業として活用できないかと思っております。また区長賞等、表彰を受けた方については全国の活動表彰に推薦するというようなこともできればつながりがより生まれるのではないかと考えております。

つづきまして のすみだ食育 good ネットの説明です。すみだ食育 good ネットさんは区内だけではなく、十勝など全国とのネットワークもすでにできておりますが、国には食育推進のネットワークを作っている制度があるため、その全国食育推進ネットワークに加入し、活動していただけないかなと考えております。現在すでに協議中だという話も聞いておりますが、実際に加盟していただけますとすみだの食育としての評価にもつながりますし、すみだ食育 good ネットの活動の幅がさらに広がっていくのではないかと思います。

です。仮で食育の地域会議とタイトルをつけさせていただいております。今回、地域ヒアリング部会に関わっていただいた地域の団体さん方は、こちらとしてはヒアリングを通して何をしているか等知ることができましたが、団体さん同士が交流できる場等が持てましたらさらなる取組に発展するのではないかと考えております。

の拠点づくりについてです。以前の計画にもすみだの食育の中で拠点づくりをしたいという記載はありましたが、実際にすみだ食育 good ネットさんなどにおいては地域のつながりも多くなってきております。またいろいろな方が交流できるような場所ができれば、そこをプラットフォームとして機能させることで拠点として食育に触れることができる機会になるのではないかと思いますので、目標として挙げさせていただきました。

次です。 の食育活動団体やそれを支える団体(商店街など)の支援です。食育の活動をしている補助金というものは、墨田区は食育 good ネットのみにしてありますが、広くみますと東京都では間接補助で食育団体に補助金を出す制度がございます。将来的にはこうした仕組みの活用を促していくことも可能かもしれませんし、今現在いろんな地域での食育活動を支援して下さるような商店街等の団体さんに向けても支援を行っていくことができればと考えております。

最後です。 のデジタル化による持続性と情報発信についてです。これは単独でというよりは全体に係るものだと思っております。デジタル化というものを取り入れていきたいと思っております。

最後に、今回小さな図で申し訳ありませんが3章にあった図を少しアレンジしまして、この章では「協働」と「SDGsのパートナーシップ」、「食育ピクトグラム12番目」がすみだの食育全体の底支えをしているイメージ図を入れたいと考えております。第4章については以上です。

委員長

ありがとうございました。それでは4章についてご意見あればお伺いしたいと思います。田口委員お願いします。

田口委員

の人材育成についてですが「区の対等の立ち位置である」とありますが、これはどういうことですか。申し訳ないですが自分にはよく理解できません。それではこれまでではそうでなかったのかと。ちょっとよくわかりませんが、文章化されるとどうということなのか、どう理解すればいいのか教えてください。

また食育活動の表彰についてですが、これは選考委員会のようなものを作ったりするのでしょうか。また、賞の基準についても教えてほしいです。もしかしたらまだ中身については決まっていないのかもしれませんが、決まっている部分があるのであればお願いします。

あと の食育の地域会議についてです。そこに「取組を共有して育てていく」とありますが、こちらでは育てていくと言っているのに対し、 では対等の立ち位置ということとなり、矛盾を感じます。少し上からものを言っているようにも感じてしまったので、私が少しおかしいのかもしれませんが、でしたらわかるように教えていただきたいです。

事務局

ありがとうございます。まず 人材育成についてですが、対等の立場というのは協働の観点から言って当然だとは思いますが。ただややもすると、養成した方々に対して、無償で区側の手足のようにいろいろなことをお願いしてしまったりすることも起こりえるかと思えます。ただ食育推進リーダーは読んで字のとおりボランティアではなく、区をサポートするのではなく、独立して食育を推進していきたいという思いの方々の集まりという意味では区との上下関係はないのだという意味合いです。ただ個の方々なため、活動する場というのはある程度区側がつくっていかなくてはならないということ表現したつもりなのですが、言葉として足りないところがありました。

また、そこと矛盾しているのではないとおっしゃられた についてですが、こちらは自分でも高飛車な言い方になっているなど改めて思いましたので、文章にする際に注意をしていきます。対等な立場の方々に対して場をセッティングするということ表現したかったのですが、こういった書き方はしてはならなかったと感じております。

河上委員

ちょっとよろしいでしょうか。今のお話について、区と対等な立場という書き方をしていますが、だとしたらボランティアやサポーターは対等な立場ではないということになります。はっきり言ってこういう文章は書いてほしくないです。明らかな誤りです。こういうことを書くのであればもう少し表現を考えたほうが良いと思います。こういうつもりで書いたのではないのでしょうか、これはお粗末だと思います。削除してください。

委員長

よろしいでしょうか。

事務局

わかりました。

委員長

他にご意見はございますでしょうか。

大久保委員

すみません、勉強不足なので聞かせてください。今まで good ネットが下請けのような形となってなんでも丸投げされたような状態だったため、協働という言葉の本当の意味を表せないのかと思っています。協働の意義と、事業の継続をしっかりと考えていけないといけません。今までみたいに丸投げのような状態であれば good ネットが疲弊していただけたと思います。good ネットは大切な区の財産なので、やはり協働していき、それが継続できるようきちとした形で表してほしいと思います。

委員長

ありがとうございます。平田委員何かありますか。

平田委員

まず個人として墨田区の目指しているガバナンスの在り方、協治協働というのは本当に難しいことで、なかなか出来上がらないものなのだと改めて感じました。そ

の意味で第4章を別に取り上げたことは非常にいいことだと思います。ただ人事等で人が変われば事業の内容も変わり、協働の在り方も変わるような体制は行政の方でしっかりと見直していただき、9つの仕組みをもって協働を強化していき、そちらを両輪で進めていってもらいたいと思います。

委員長

ありがとうございます。それでは栗田委員よろしくお願いします。

栗田委員

はい。改めてこの構成案を見させていただきましたが、ただ今の質疑の中でそれぞれの委員のみなさまの立場からこれまでの経緯も踏まえて、計画に反映すべき内容についてのご意見がありましたので、私からの意見は特にございません。

委員長

はい、ありがとうございます。それでは今回初めての参加となりますが、浜本委員何かございますでしょうか。

浜本委員

特に大丈夫です。

委員長

よろしいですか。それでは5章の「区が進める食育の取組」について説明をお願いします。

田口委員

すみません、表彰についての答えを得られていないので回答していただいてもよろしいですか。

委員長

すみません、表彰についてのコメントをお願いします。

事務局

こちらについては表彰式や、競わせる類のものではなく、いろいろな食育活動をしている方々の活動をお披露目するようなイメージの会と考えています。ただ、お披露目するだけではなく、そこに何らかの賞がついてくると参加される方々の励みにもなりますし、見ている方も楽しくなるのではないかと考えております。

また先ほど申しましたように、関心はあるけれど活動をするには至らないという方々がこうしたものを見ることで、自分たちも参加してみたいという気持ちにシフトしていただけないかと考えております。もともと農林水産省でやっております活動表彰というものがあまして、毎年6月の全国大会で賞が発表されているのですが、もしそうしたものをすみだの中で行うことができれば、これまで知ることのできなかつた食育の活動を一般の方に知っていただけるイベント・発表会になるのではないかと考えて提案させていただきました。

田口委員

意味は分かりました。ただ、実は私たちも子供たちに対して作文コンクール等を開いているのですが、だんだん子供たちが賞をもらいに来なくなってきました。ですので、ただ賞状を出すだけで意味があるのかどうか疑問があります。賞状を渡しても、もらってそのまま丸めてポイなんてことがあると思うのです。

もし本当にこうしたことを行いたいというのであれば、そこがきちっと回るよう

な仕組みを作っておかないと、目論見的には誤算になるのではないかと思っています。むやみやたらに出せばいいと思っているのであれば違うと思います。区でも町会に対して感謝状を出していると思いますが受け取り手がいない状態です。ですから、どうせこういうことをするのならそれなりのものを考えないと、ある程度権威のあるものにしないといけないと思います。

委員長

はい。そうしましたらこちらは煮詰めていくということでよろしいですか

事務局

こちら 9 点書かせていただき、次期計画で取り組ませていただく予定です。ただ、来年すべてやるのではなくできるところから始めていきまして、詳細が決まっていない取組についてはよく考えてから始めさせていただきたいと思っております。

委員長

田口委員よろしいでしょうか。

田口委員

はい。

委員長

それでは第 5 章へ進ませていただきたいと思います。事務局お願いします。

事務局

はい。第 5 章につきましては、現計画の 4 章が移ってきたところでございます。区が進める食育の取組をこの 5 章においてライフステージごと、そしてトータルライフステージごとに分類をし、お示ししていくこととなっております。各課の取組につきましては調査が終わりましたので、今後この表の中に落とし込んでいきたいと思っております。それでは続きまして 6 章 7 章へ進ませていただきます。

第 6 章です。こちらにつきましてはタイトルを「地域の力を育む区民が進める食育の取組」ということで、現計画の 5 章の中身を少々変えたものとなる予定です。内容ですが、地域ヒアリング部会の方々が様々な活動についてヒアリングをしてくださいました。その中で、どういうことがあれば活動が推進されていくのかということを検討した結果、活動の場が必要だという意見があがりました。また、ヒアリングを行う際「つなぐ・つくる・伝える・活かす・育む」というすみだの 5 つの行動ステップをしていることがわかり、そして困難な課題はあるものの、みなさまが夢を実現したいという熱い思いの中活動していることで、受け手の方が担い手へとシフトしていくという事例が見受けられたという報告が有りました。そのため、こちらの章につきましては児童館や大学など、様々な場で実践してきたことでわかったことを書き込んでいきたいと思っております。

現計画においては、地域の方々がこんな食育をやりたいということでアイデアを出していただいたというページがございましたが、今回の計画においては実際に実践した結果こんなことが分かった、こうしていけば他の方々も取組が楽しくなるのではないかということについて書き込んでいく予定です。

最後に第 7 章です。こちらは定量評価、定性評価についてです。こちらについては現在の評価項目を見直しまして、新しい項目等も検討しております。すみだモダ

ンなどの飲食店につきましてはなくなりましたので、廃止して新たなものを追加したいと思っております。その一つの候補といたしましては、保健計画課の中で健康的な食環境整備事業を考えておりますので、そのような店舗数などいいのではないかと考えております。さらに、今ある指標の中から、バランスが良い食事を1日1食以上している人という評価がございますが、かなりの方が満たしているという状況です。そのため、今後は敷居を少し上げまして2食以上としてはどうかと考えております。2食以上にすることで、東京都や国との数字をダイレクトに比較できるというメリットもございます。さらに、塩分を控えているかということに関しては、実際の量を把握することが難しいため、現在保健計画課が野菜の摂取量をアップして健康寿命を延ばしていこうという取組をしていることから、野菜の摂取量に変えてもよいのではないかと考えております。さらに、アンケート調査の方法についても今後考えていきたいと思っております。以上です。

委員長

はい、以上で1から7章までの説明が終わりました。それで、本日欠席の高山委員からご意見をいただいているということで事務局の方でよろしいでしょうか。

事務局

はい。高山委員より事前にお話を伺いまして、本日の議事の主に定量評価についてご意見をいただきました。

塩分から野菜への設問変更案についておおむね同意しますとのご意見です。また、食塩については食事摂取基準からもわかるとおり時代の変化がうかがえ、墨田区はBDHQという習慣的な食事から摂取している栄養素量を知ることができる質問票を用いて調査を実施しているため、野菜摂取量の評価は重要な項目の一つと考えますとのことでした。そして同時に、BDHQを実施しているのであれば果物の摂取量などほかの項目の評価も可能であり、大変貴重なデータとなりうることから設問についてはそれら全体を評価できるような項目を考案してもよいのではないかとご意見がありました。

子ども食堂やフードバンク等に関する定量的評価の必要性についてはいかがか、みなさまのご意見を伺いたいとおっしゃってありました。最後に協食に対する設問について、コロナ禍である令和3年に調査したのはよいことであったように感じますが、一方でコロナ禍だからこそ回答者の考え方にバイアスが生じている可能性もあるとのことでした。協食の在り方はコロナ禍で特に問われたことの一つであるようにも感じられるので、十分な評価ができるよう項目を練る必要があるとも考えているとのことでした。また、パブリックコメントで寄せられると予想される内容も踏まえて作成してはいかがでしょうかとご意見をいただきました。以上です。

委員長

それでは計画構成案全体を通じてのご意見をよろしく申し上げます。

河西委員

全体を通してというわけではないのですが、私は飲食店を代表してきておりますので、各飲食店の話をさせていただきます。10月25日から宣言が完全解除されまして、みんな復活しております。現状主に組合長から聞くと、食事の量を削減して出

してくれというお客さんが非常に増えているとのこと。そしてそういうお客さんに対して値段は同じでも少ない量を出したりだとか、値段が同じな分何かトッピングを別でつけたりして提供しているようです。

今後、コロナが収まっていくかはわかりませんが、組合長に対してはこれから食品ロスの削減をテーマにやっという話しておりますので、先ほどの説明の中にそういう項目も入っていましたが、引き続き入れていただければと思います。

委員長

ありがとうございました。それでは栗田委員お願いします。

栗田委員

改めてこの構成案を拝見させていただいて、気になったのが4章の「庁内協働の強化(担当者会議、課長級会議)」についてです。協働というのは、一般的に行政と民間というように、異なる主体がそれぞれ力を合わせて取り組んでいくことだと思っております。ですので、庁内の協働というのは若干おかしいのではないかなと感じました。ただ前回の計画の中でも食育の指針、区民と区の協働による食育の推進という項目の中に区の食育関連部署での協働というものがありますので、それを踏襲されているのかもしれませんが、区の中で一体となって取り組むことを明確にするという意味合いなのかなと思いますが、そこが気になりました。

また、この5年間においてどのくらい食育が推進したのかということを中心に評価する必要があると思っておりますが、コロナ禍であったということ踏まえましても若干停滞していたと言わざるを得ないと思います。やはり行政としてしっかりと計画に沿って進めていくという意味でも、責任の所在を明確にするとか進捗管理をきちんとしていくということが必要なかなと思っておりますので、そのあたりをこの計画の中にどれだけ落とし込めるかを考えていただきたいなと思えました。

委員長

はい、ありがとうございます。お話しいただいたのが現計画の評価をしっかりとという内容でしたが、定性評価と定量評価のほかに区としてはどういう評価を考えているのかということをお話しいただいてもよろしいでしょうか。

事務局

今回の計画改定にあたりまして、他の課の食育関連担当者の方々に無記名でアンケートを取らせていただきました。すみだの食育に関連する方々が会議に出ているはずなのですが、そのアンケートの結果で、なかなか他の部署の方が食育と一緒にやっている意義ですとか、目標が共有しきれていないということがわかりました。

先ほど栗田委員からご指摘のありました庁内協働、これをあえて謳う必要はないじゃないかというご意見をいただきましたが、ただここはそれを書かせていただくことで担当者及びほかの部署の担当者の気を引き締めていきたいと考えております。こうした調査も行いましたことを報告させていただきます。

委員長

他にございますか。

大久保委員

栗田委員の発言内容について、担当者の回答がずれてしまっていると思います。

栗田委員がお尋ねしているのはその担当部署のご自分の評価はどうかということだと思います。今までのように good ネットに丸投げをするのではなく、それをどう評価し、これからどうしていくのかと、そういったことを聞きたいのだと思います。また先ほどおっしゃった他の部署のアンケートについても、そういうものがあるのでしたらこの場でお示しいただきたいと思います。そういったところも非常に物足りないです。

委員長

そもそもの区の評価ということですね。そちらの方はいかがでしょうか。

事務局

この5年を振り返りまして、私はそのうちの4年間は担当者だったのですが、以前のように食育に携わっている方々が区と一緒に協働しているという実感がなかったり、先ほど丸投げをされていると感じたりしているということに関しては、こちらの姿勢であるとか、仕事の仕方について自分で振り返って評価するというよりも、周りからの評価そのものが自己評価となるのかなと感じております。正直公務員としてそういったことを言われているということは恥ずかしい限りだという風に思っております。そういった点で、まずはそこを正していかないと次の計画についても、何も実現していかないのではないかということになるのではないかと思います。

私としても持続可能な食育の推進体制というのは決して民の方々を指しているものではなく、まず墨田区側の食育担当が持続できなければならないと思っております。その持続というのはただ担当としているのではなく、民の方々の信頼を得てやっていくというのがこの立ち位置に求められているものだと感じておりますので、そのような担当でありたいと思います。

ただ持続的に同じ者が担当であり続けることはよくない、い続けない方がある部分風通しのいい関係が再度生まれてくるかもしれませんので、それは上司と相談しないとわかりませんが、私としてはそうした関係に戻していくというのを今の立ち位置の中において全力でやりたいと思っております。

大久保委員

そうではないです。個人を責めているのではなく、組織としていかがなものなのかと聞いているのです。まるで個人を言っているかのような感じですが、それはもういいです。組織としてどういう評価で、どうするおつもりなのかを聞きたいです。

委員長

そうなりますと、岩瀬委員お答えいただいてよろしいでしょうか。

岩瀬委員

難しい質問かなと思います。私も現計画を策定した次の年までいしましたが、戻ってくるまでの間いろいろなことがあったことは重々理解をしております。やはり大久保先生のおっしゃったとおり個人ということではなく組織としてこの数年間、若干組織力という部分で全国大会開催当時と比較すると、地域と一緒に協働していかなければならないという点について、少し計画内容を実践できなかったところはあると思います。これは組織として、保健衛生担当としての組織力も足りなかったということ認めざるを得ないと思います。

一方で、この間 good さんに丸投げというよりは good さんを通じて福島や十勝な

ど、着実に食育の芽が広がってきている実感はしてきております。次期の計画において、そのあたりについてもより広がりを見せていきたいと思っています。

今回の計画が大幅な見直しでなかったということに関しては友成先生からも一定の評価をいただきました。これまでの方向性については間違っていなかったのだと思っています。あとはこれをいかに実効性のあるものにしていくか、これについて今回の骨子でもかなり手厚く準備した部分であります。このあと執筆作業に入りますが、今回ご意見いただいたところを踏まえてしっかりと書きこんでいくと同時に、全て100%できるかどうかについては現時点で断言することはできませんが、実効性のあるものにしていきたいと思っております。

この食育の計画というのは民と協働でやっていくスタイルでありますので、そこをしっかりと実践できるように私たちも進めていきたいと思っております。

委員長

ありがとうございました。本当に動かなかった時期がありましたので、しっかり組織として持続可能な推進体制を敷いていっていただきたいと切に願います。今回のように会議の仕立て自体ぎりぎりの詰まった状況でこられてしまうと、会議を開くのも嫌になってしまいますので、その部分しっかりと願います。

内野副委員長

一つよろしいでしょうか。現在新しい日本全体の食育の動きとして、災害食の支援や、子ども食堂、フードパントリー、それから食育のデジタル化というところでは、いろいろな食育イベントなどをアプリで検索できるようにするですとか、いろいろな動きがあります。そういった動きが計画の中に落とし込めるような内容になっているかと理解しておりますので、これから活発な動きが展開されるのではないかと期待しております。

先日ちょうど、子ども食堂などを展開している全国の意見交換会がありまして、そこでは行政との組み方についてみな非常に悩まれてらっしゃいました。そういう意味では、墨田区がモデルケースとなれるように区民と行政が協力して動いていくというケースを示すことができると、食育活動がより活発化していくのではないかとこの計画を拝見しながらイメージした次第です。ぜひ何かできることがあれば微力ながらお力になりたいと思っておりますので、これからもどうぞよろしくお願いいたします。

委員長

ありがとうございました。他にありますでしょうか。よろしいでしょうか。それでは食育推進計画構成案につきましてご承認いただける方は挙手をお願いします。ありがとうございます。それでは委員のみなさまからいただいた意見を踏まえて素案作りをさせていただくようよろしくお願いいたします。

議事については以上となります。最後に何か皆様から情報提供等ありましたらよろしくお願いいたします。

田口

少しよろしいでしょうか。配布資料の中にすみだの夢という紙があると思います。今回は墨田区全体の小中学生を対象にし、現在80ほどの夢が集まっています。その中にお医者さんになりたいといったものがあります。この中には医師会の方もお見えになっておりますので、紙面のQRコードから支援のページに飛ぶことができ

ますので、もしご協力いただけるものがありましたらよろしくお願いします。

委員長

ありがとうございます。ご協力お願いいたします。そして最後に私から一つよろしいでしょうか。11月26日の金曜日にトークライブ「食で地域をデザインする」というタイトルで good ネット、千葉大学、墨田児童館がコラボしてトークライブを行います。ご興味がありましたら是非ご覧いただければと思います。よろしくお願いします。それではお返しいたします。

事務局

委員長ありがとうございました。次回の案内でございます。次回のすみだ食育推進会議につきましては1月26日(水)午後1時半から122会議室で開催予定をしております。以上でございます。それではこれですみだ食育推進会議を閉会させていただきます。本日は長い時間ありがとうございました。